

平成 24 年度 研究会オープンマインドなすの会 活動報告

<p>第 51 回（総会） 2012 年 8 月 25 日（土）</p> <p>せん妄ケア —せん妄のアセスメント から実践的なケア—</p>	<p>国立障害者 リハビリテーション センター 看護部長</p> <p>栗生田 友子 先生</p>	<p>せん妄はなぜ高齢者に発症しやすいのか、準備因子、促進因子、直接原因が示されました。せん妄の評価尺度はいくつかあり、それぞれの尺度の説明といつ使用するか、現場でうまく活用する方法を詳しく説明していただきました。また、せん妄発症者の家族へのケアのポイントやせん妄ケアの改善の方向性をつかむためには、病棟の特徴をとらえることの重要性とともに改善に必要な要素について具体的な方策の説明がなされました。</p>
<p>第 52 回 2012 年 11 月 17 日（土）</p> <p>放射線の今と、 福島に住むこと</p>	<p>福島県立医科大学 放射線科医師</p> <p>宮崎 真 先生</p>	<p>外部被爆について、ガラスバッジの結果比較などを提示とともに外部被爆の検査結果のまとめを紹介いただきました。その上で、個人・地域でできることとして、可能な防護の方法など提言いただきました。また、内部被爆に関してもデータに基づき、2012 年福島の食材を利用しても 0.037mSv と試算されるとのことでした。体内放射線量を低く抑える食材の選び方も教えてもらいました。そして、放射線が人間にどう影響するかを丁寧に説明していただきました。</p>
<p>第 53 回 2013 年 3 月 9 日（土）</p> <p>支援者、 だからあるストレス ～看護師も癒されたい～</p>	<p>武蔵野大学 人間科学部大学院 人間学専攻</p> <p>小西 聖子 先生</p>	<p>やりがいがある仕事、続けられる仕事の特徴の話から始まり、リスクの高い救護者、支援者ストレス、相談者のメンタルストレス、危険要因、Pearlman の勤めるストラテジなどを系統的にお話いただきました。講演後、参加者の震災の思いやストレスを抱えている同僚や部下との向き合い方の相談などで講師と参加者が活発にやりとりする時間となりました。</p>
<p>第 54 回 2013 年 6 月 9 日（日）</p> <p>看護研究 入門編</p>	<p>臨床研究支援センター</p> <p>林 ゆたか 先生</p>	<p>看護研究の講演会？と疑ってしまうほど、笑いの絶えない時間でした。研究の枠組みを分かりやすく解説いただき、「研究とは臨床的な経験知を理論知に変えていく営みである」と結ばれました。参加者からは、看護研究の番となり憂鬱な気持ちになっていたが、何とかやれそうな気がしてきたなどの意欲が出てきた、前向きな気持ちになれたなどの感想が多く寄せられました。</p>

毎年 7・8 月より新年度が開始となります。